

3-6 美学・西洋美術史

研究・教育活動の概要と特色

美学・西洋美術史研究は、人間の証とでもいうべき感性、創造性に依拠しています。「近代」においてはとくに芸術が、宗教や共同体幻想を代行するまでになっています。だとするとそれにはどのような意味があるのか、を問わなければなりません。その問を具体的な作品にアプローチすることで果たそうとしています。芸術作品が成り立つその前提を疑うという姿勢から、新たな価値観を見いだす作業を「美学」において学べるように努めています。本講座で学ぶ美学は、いわゆる伝統的な理論的美学ではなく、美術史研究を行っていく上で方法論を考える、価値判断の重要性を認識する手段となっています。

一方、美術史学は作品を歴史的コンテクストの中で調べ、現代的な批評の視点でその様式、図像、社会的位置を研究するように努めています。美術史においては、西洋美術全般にわたって様式的分析ばかりでなく、その「イコノロジー」的考察、社会史的分析を視野に入れて芸術家と作品との関係を考察することに主眼を置いています。それに加えこれまでマイノリティーの問題であった、東洋からの西洋美術への影響を取りあげ、その意義を明らかにしていきたい。

I 組織

1 教員数（2011年9月末現在）

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：尾崎彰宏

准教授：芳賀京子

助教：加藤奈保子

2 在学生数（2011年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博 士 前期	大学院博 士 後期	大学院 研究生
18	0	4	4	0

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業者	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	8	2	0
08	8	3	1
09	4	0	2
10	10	3	1
11	0	0	1
計	30	8	5

* 2011年度は、9月末までの数字

過去5年間の組織としての研究・教育活動（2007～2011年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件 数	論文博士授与件 数	計
07	0	0	0
08	1	0	1
09	2	0	2
10	1	0	1
11	1	0	1
計	5	0	5

* 2010年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

佐々木千佳、2008年度、『ジョヴァンニ・ペッリーニと十五世紀ヴェネツィア社会』

審査委員：教授・尾崎彰宏(主査)、准教授・芳賀京子、教授・長岡龍作、教授・泉武夫、准教授・有光秀行

加藤奈保子、2009年度、『一七世紀初頭のローマ社会とカラヴァッジョ 伝統と革新 』

審査委員：教授・尾崎彰宏(主査)、教授・長岡龍作、教授・泉武夫、准教授・今井勉

森田優子、2009年度、『ヴィットーレ・カルパッチョ研究 「スラヴ人会」連作を中心に 』

審査委員：教授・尾崎彰宏(主査)、准教授・芳賀京子、教授・長岡龍作、教授・泉武夫、准教授・今井勉

石澤靖典、2010年度、『サンドロ・ボッティチェッリ研究 都市イメージの形成と芸術家の役割 』

審査委員：教授・尾崎彰宏(主査)、准教授・芳賀京子、教授・長岡龍作、教授・泉武夫、准教授・有光秀行

小松健一郎、2011年度、『コレッジョと十六世紀初期ポー川中流域の芸術 「周縁」におけるマニエラ・モデルナの形成』

審査委員：教授・尾崎彰宏(主査)、准教授・芳賀京子、教授・長岡龍作、教授・泉武夫、准教授・有光秀行

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
07	0	1	0	0	1
08	2	3	0	0	5
09	2	1	0	0	3
10	0	2	1	0	3
11	0	0	0	0	0
計	4	7	1	0	12

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	0	4	1	0	5
08	0	3	1	0	4
09	0	1	0	0	1
10	0	4	0	0	4
11	0	1	0	0	1
計	0	13	2	0	15

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

阿部愛、「展覧会評「オランダのカラヴァッジョ　カラヴァッジョとユトレヒト派カラヴァッジェスキによる音楽と風俗画」展」、『美術史学』、第30号、135-144頁、2009年

石澤靖典、「一五世紀フィレンツェにおける美術と地理学　ベルリンギエリ『地理学の七日間』をめぐって」、『文化』、第72巻第3・4号、29-52頁、2009年

石澤靖典、「十五世紀フィレンツェにおける都市図の展開　フランチェスコ・ロッセッリの地図制作と都市の理念」、『都市を描く　東西文化にみる地図と景観図』（佐々木千佳・芳賀京子編）、東北大学出版会、31-97頁、2010年

伊藤麻衣、「ルーカス・クラナハ（父）の《聖カタリナ祭壇画》に関する一考察　自然と身体運動の表現の変遷を中心に」、『美術史学』、第31/32号、2010/2011年

奥田亜希子、「展覧会評「コスメ・トゥーラとフランチェスコ・デル・コッサ　ボルソー・デステ時代のフェッラーラ芸術」展」、『美術史学』、第28号、99-103頁、2007年

門田彩、「《聖イルデフォンソ》（イリエスカス、カリダー施療院）をめぐって　ペドロ・サラサール・デ・メンドーサとの関係を中心に」、『美学』、232巻、85-98頁、2008年

門田彩、「1600年前後のトレドにおけるエル・グレコ」、『鹿島美術研究

- 年報』、第 25 号別冊（2007 年度）、232-240 頁、2008 年
- 門田彩、「エル・グレコ作《彫刻家の肖像（おそらくポンペオ・レオーニ）》をめぐると考察 フェリペ二世の主席彫刻家ポンペオ・レオーニとの関係 」、『美術史学』、第 29 号、165-178 頁、2008 年
- 絹川陽子、「展覧会評 サン・ロレンツォ教会における建築家ミケランジェロ 四つの未解決問題 」、『美術史学』、第 28 号、91-97 頁、2007 年
- 工藤弘二、「セザンヌの水浴図研究」、『鹿島美術研究年報』、第 24 号別冊(2006 年度)、310-321 頁、2007 年
- 小松健一郎、「展覧会評「コレッジョ」展」、『美術史学』、第 29 号、215-221 頁、2008 年
- 小松健一郎、「初期コレッジョとエミリア地方の「早熟な古典主義」 「周縁」の芸術に関する一試論」、『美術史』、第 167 冊、2009 年
- 斉藤陽介、「アングル作《博士たちの間のイエス》に関する一考察 背景表現の変遷を中心に 」、『美術史学』、第 31/32 号、2010/2011 年
- 二宮洋輔、「ヴァン・ダイクの肖像画における「岩」のモチーフに関する一考察」、『美術史学』、第 29 号、179-198 頁、2008 年
- 佐々木千佳、「トリヴァルツィアーナ図書館蔵《ラファエーレ・ツォヴェンツォーニの肖像》をめぐると詩人と画家」、『美学』、第 233 号、58-71 頁、2008 年
- 森田優子、「聖ルカの遺体の移送 パドヴァのサンタ・ジュステーナ聖堂サン・ルカ礼拝堂をめぐって」、『美術史学』、第 28 号、67-75 頁、2007 年
- 森田優子、「聖アウグスティヌスの書斎 カルパッチョ作「スラブ人会」連作をめぐって」、『美学』、第 233 号、2008 年

(2) 翻訳

- 佐々木千佳訳、展覧会カタログ『パルマ イタリア美術、もう一つの都』（国立西洋美術館、2007 年 5 月 29 日～8 月 26 日）、読売新聞社、翻訳（第 1 章巻頭論文、第 1 章 nos.01-06,08-09、第 2 章 nos.01-06、第 4 章 nos.03,04）
- 門田彩訳、マーティン・ヘニッグ「古代ローマ世界の彫玉」、展覧会カタログ『カメオ展 宝石彫刻の 2000 年 ～アレキサンダー大王からナポ

レオン3世まで〜』（箱根 彫刻の森美術館、2008年9月6日～10月26日 他）、産経新聞社、2008年、pp. 20-24.

加藤奈保子訳、展覧会カタログ『カメオ展 宝石彫刻の2000年 ～アレキサンダー大王からナポレオン3世まで〜』（箱根 彫刻の森美術館、2008年9月6日～10月26日 他）、産経新聞社、2008年、章解説翻訳（pp. 42-43, 106-107, 172）.

小松健一郎訳、展覧会カタログ『古代ローマ帝国の遺産——栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ——』（国立西洋美術館、2009年9月19日～12月13日）、国立西洋美術館、2009年、章解説と作品解説の翻訳（pp. 33-34, 81, 109, 110, 112, 115）

絹川陽子訳、展覧会カタログ『古代ローマ帝国の遺産——栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ——』（国立西洋美術館、2009年9月19日～12月13日）、国立西洋美術館、2009年、論文と作品解説の翻訳（pp. 19-27, 125, 126, 131）

小松健一郎訳、展覧会カタログ『大英博物館古代ギリシャ展』（神戸市立博物館ほか、2011年3月12日～）、朝日新聞社、2011年、章解説と作品解説の翻訳

奥田亜希子訳、展覧会カタログ『大英博物館古代ギリシャ展』（神戸市立博物館ほか、2011年3月12日～）、朝日新聞社、2011年、章解説と作品解説の翻訳

阿部愛訳、展覧会カタログ『大英博物館古代ギリシャ展』（神戸市立博物館ほか、2011年3月12日～）、朝日新聞社、2011年（出版予定）、章解説と作品解説の翻訳

（3）口頭発表

阿部愛、「カラヴァッジョのコピー制作にかんする考察」、第58回美学会全国大会、2007年10月7日

伊藤麻衣、「ルーカス・クラナハ（父）の《聖カタリナ祭壇画》に関する一考察 森からの離脱と感情表現の変化」、第61回美学会全国大会、2010年10月9日

奥田亜希子、「ベノッツォ・ゴッツォリの「正面観」に関する一考察 画家の両面性を映す鏡としての「正面観」」、第61回美学会全国

- 大会、2010年10月9日
- 門田彩、「エル・グレコ作、イリエスカスの《聖イルデフォンソ》にかんする一試案」、第58回美学会全国大会、2007年10月7日
- 門田彩、「エル・グレコとペドロ・サラサール・デ・メンドーサ～《聖イルデフォンソ》考察より」、スペイン・ラテンアメリカ研究会、2007年12月8日
- 絹川 陽子、「中世末期の悪の一表象 ピサのカンポサントの《死の勝利》を中心に」、第62回美術史学会全国大会、2009年5月24日
- 小松 健一郎、「「周辺（periferia）の画家」 コレッジョの形成期における諸流派との関係」、第61回美術史学会全国大会、2008年5月31日
「コレッジョ作 ユピテルの愛 連作と16世紀エロティック絵画の潮流」、第3回美学会東部会例会、2009年10月3日
- 斉藤陽介、「アングル作《博士たちの間のイエス》に関する一考察 キリスト教・ユダヤ教的要素を手掛かりに」、第61回美学会全国大会、2010年10月10日
- 榊田 亜佐子、「ヒューホ・ファン・デル・フース作ベルリンの《降臨》にかんする一考察」、第58回美学会全国大会、2007年10月7日
- 篠崎亮、「ヤン・ホッサールトの肖像画背景に描かれた大理石パネルをめぐる一考察」、第62回美学会全国大会、2011年10月16日
- 鈴木幸野、「ブレンツォーニ家墓碑におけるピサネッロ作壁画をめぐる考察」、第59回美学会全国大会、2008年10月13日
- 鈴木幸野、「ベルガモ郊外マルパーガ城内のフレスコ画連作について」、第2回美学会東部会例会、2010年9月25日
- 二宮洋輔、「ヴァン・ダイクの肖像画における「岩」のモチーフに関する一考察」、第59回美学会全国大会、2008年10月13日
- 森田 優子、「聖アウグスティヌスの書斎 カルパッチョ作スクオーラ・ダルマタ連作をめぐる」、第19回美学会東部会例会、2007年11月24日

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2007年度 博士後期課程 計3名 ドルトムント大学(ドイツ)、フィレンツェ大学(イタリア)、ピサ大学(イタリア)

2008年度 博士前期・後期課程 計2名 レンヌ大学(フランス)、ヴェローナ大学(イタリア)

2010年度 博士課程後期 1名 ローマ大学「ラ・サピエンツァ」

2011年度 博士課程後期 1名 ローマ大学「ラ・サピエンツァ」

5-2 留学生の受け入れ状況(学部・大学院)

年度	学部	大学院	計
07	0	0	0
08	0	0	0
09	1	0	1
10	3	0	3
11	2	2	4
計	5	3	8

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	0	0	0
08	0	0	0
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
計	0	0	0

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

2007年度 喜田早菜江 志賀高原ロマン美術館(学芸員)

2009年度 工藤弘二 国立新美術館(研究補佐員)

2010年度 奥田亜希子 北九州市立美術館(学芸員)

門田彩 メナード美術館（学芸員）
鈴木幸野 志賀高原ロマン美術館（学芸員）
谷口依子 戸栗美術館（学芸員）
2011年度 石澤靖典 山形大学人文学部准教授

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2007年度 1名
2008年度 1名
2009年度 1名
2010年度 4名
2011年度 1名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『美術史学』（年刊）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2007年度

11月24日 美学会例会 共催：宮城県美術館（於：宮城県美術館）

2008年度

8月2日 イタリア美術特別講演会「メディチ家の考古学コレクション」

2010年度

6月19、20日 第34回地中海学会大会

2011年度

10月15～17日 第62回美学会全国大会

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

[研究会]

・2007 年度

6 月 21 日 若手研究者萌芽研究育成プログラム「地図と都市景観図にみる異文化受容の様相 15 世紀から 17 世紀におけるアジアとヨーロッパの出会い」第一回定期研究会「15-16 世紀ヴェネツィアの都市景観について」発表者：佐々木千佳

10 月 28 日 若手研究者萌芽研究育成プログラム「地図と都市景観図にみる異文化受容の様相 15 世紀から 17 世紀におけるアジアとヨーロッパの出会い」第二回定期研究会「佐賀県立名護屋城博物館蔵「肥前名護屋城図屏風」にみる景観表現」発表者：坂本明子

・2008 年

6 月 24 日 若手研究者萌芽研究育成プログラム「地図と都市景観図にみる異文化受容の様相 15 世紀から 17 世紀におけるアジアとヨーロッパの出会い」第三回定期研究会「15 世紀フィレンツェにおける都市景観図の展開 - 都市の理念と F. ロッセリ作《フィレンツェ図》」発表者：石澤靖典

11 月 20 日 若手研究者萌芽研究育成プログラム「地図と都市景観図にみる異文化受容の様相 15 世紀から 17 世紀におけるアジアとヨーロッパの出会い」第四回定期研究会「鋏形蕙斎筆「江戸一目図屏風」について - 季節と時間の表現を中心に -」発表者：佐藤琴

・2009 年

6 月 13 日 若手研究者萌芽研究育成プログラム「地図と都市景観図にみる異文化受容の様相 15 世紀から 17 世紀におけるアジアとヨーロッパの出会い」第五回定期研究会「西洋古代における都市景観図の成立～なぜ西洋の都市図は無人なのか～」
発表者：芳賀京子

7 月 10 日 美学・西洋美術史特別講義「メディアを通して見た近代日本」(大学間学術協定校ローマ大学「ラ・サピエンツァ」マルコ・デル・ベーネ教授)

10 月 4 日 大学院 GP、東北史学会共催シンポジウム「文書館・博物館のこれからとアーキビスト・キュレーター養成」

10 月 5 日 大学院 GP 共催、西洋美術史特別講演会、インゲボルク・

カーダー氏(ミュンヘン大学)「ヨーロッパの石膏像ギャラリー
——その歴史と現在——」

11月13日 美学・西洋美術史特別連続講義「マニエリスムの芸術論
アルベルティからカミッロへ」(弘前大学人文学部准教授・
足達薫)(科研費「カーレル・ファン・マンデル著『北方画家列
伝』の成立と影響に関する比較芸術論的研究」基盤研究(B)に
よる招聘講師)

・2010年度

6月3日 大学院 GP 共催、西洋美術史特別講演会、ニコラス・
リーヴス氏(メトロポリタン美術館特別研究員)「ツタン
カーメンの黄金のマスクの謎」

[土曜会(読書会)]

2007年度 第22回(10月20日)、第23回(2月28日)

2008年度 第24回(9月28日)、第25回(2月14日)

2009年度 第26回(8月29日)。第27回(9月20日)

2010年度 第28回(4月3日)

[卒論・修論構想発表会]

2007年6月25日、7月17日

2008年7月22、25日

2009年7月13、14日

2010年7月12、13日

2011年8月2日

[研究会]

・2007年度

4月24日 奥田亜希子「フラアンジェリコ研究《十字架降下》をめぐ
って」

4月24日 絹川陽子「ピサのカンポ・サントの壁画《死の勝利》に描
かれた、人間の腐敗した死体の意味」

1月22日 榊田亜佐子「ヒューホ・ファン・デル・フースの後期作品
について」

- 1月22日 阿部愛「ローマにおけるカラヴァッジョ芸術の広がり
私的コレクションのための宗教画を中心に」
- ・2008年度
 - 7月25日 榊田亜佐子「ヒューホ・ファン・デル・フース作《降誕》
について」
 - 7月25日 伊藤麻衣「ルーカス・クラナハ(父)《聖カタリナ祭壇
画》」
 - 7月25日 阿部愛「ローマを中心としたカラヴァッジョ芸術の広がり
ロンドン、ナショナル・ギャラリー所蔵《エマオの晚餐》を中心
に」
 - ・2009年度
 - ・2010年度
 - 4月26日 伊藤麻衣「ヴィッテンベルク時代初期(1505-09年)におけ
るルーカス・クラナハ(父) 聖カタリナ祭壇画 にみられる、
ドイツの視覚的伝統の影響」
 - 5月7日 石澤靖典「ボッティチェッリの《サン・バルナバ祭壇画》
ダンテの銘文とアウグスティヌス派の聖母信仰をめぐって」
 - 7月5日 絹川陽子「カンポサントの《最後の審判と地獄》におけるキ
リストと聖母」
 - 7月12日 奥田亜希子「ベノッツォ・ゴッツォリの「正面観」に関する
一考察 画家の両面性を映す鏡としての「正面観」」
 - 9月6日 研究経過報告会(鈴木幸野・伊藤麻衣・斉藤陽介)
 - 9月22日 大学院生の研究構想報告会
 - 2011年
 - 8月2日 大学院生修論構想発表会

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

2004年度をもって一名の教員が定年により退職し、05年度は教授1名と助教1名体制になった。そのため学部・大学院を合計すると50人近い学生を抱える研究室としては、教育・研究のヴァリエーションの幅が小さくなったことは否めない。しかし、06年より助教授を迎え、教育的な専門領域が充実するようになった。さらに09年度からは、「美学」を専門とするイタリア人准教授が加わ

りスタッフの充実がはかられた。

教育活動としては、留学や研究生生活を継続してきた大学院生の課程博士論文の授与数がこの5年間で4名となった。今後とも博士論文が質量とも充実していくことが望まれる。

その理由はいくつか考えられる。一つは、全国学会で発表後、最初の論文を作成するところまでは、ある程度順調にいくが、そのあと、留学の準備やそして留学によって、実際に論文を作成するよりも、作品を見てまわり、文献を調べたり調査したりする充電期間が予想以上に長くかかっていることがあげられる。

もう一つは、昨今の学生の場合、ロールモデルの存在が非常に大きい。博士論文提出者の理想的なロールモデルとなる学生が現在まで研究室にあらわれていない。その理由としては、論文を書くと言うことの意味づけが今ひとつ諒解されていないのではないかと。本研究室でも、博士課程に進学した学生大半が、それぞれの専門領域におうじて海外の研究機関へ留学をしている。留学前後と比較すると、当該学生の語学力には格段の進歩がみられることは確かだ。作品の調査能力の進化にも一日の長が見うけられる。しかし、人文学にとって不可欠ともいえる、問題意識　なぜこの問題に取り組むのか、という必然性が深化しているとは言い難い。これがやはり、帰国後、留学と研究成果の発表とに直接的な結びつきがやや欠ける理由ではないか。

こうした研究・教育上の問題点は早くから意識されており、専攻分野主催の研究会などの活動をできるかぎり積極的に行ってきた。授業や演習とは別に、院生をレポーターとして、美術史という分野の視点に立って美術史関連分野の書物を読んでその問題点と課題を発表し参加者で議論する研究会を定期的開催している。そうすることで、ややもすると自分の専門領域の狭い範囲に閉じこもりがちな院生の問題意識を活性化させる努力をしている。

さらには、学部生、院生を交えた作品の調査・研修旅行を毎年企画し、作品への接し方や問題意識など日常を脱したところで自由に語り合うことも行っている。しかし、成果という点からすると、なお充分とは言い難い。研究指導において、学生のモチベーションをさらに高めていくことが、今後の院生指導の課題である。

最後に学生の就職にふれておきたい。学部卒業生の就職状況は、公務員、一般企業など、業種はまちまちであるが、それぞれ積極的に活動しおおむね良好

である。院生の場合も、博士課程の前期修了者の場合、とくに専門領域にこだわらない形で就職を希望するものは、出版、マスコミなどそれぞれの希望に合わせて就職している。美術館、大学教員など専門職を希望する院生は、博士課程後期に進学しているが、状況は10年前とくらべると一段と厳しくなった。このあたりの学生支援をどのように進めていくかが課題である。

教員の研究活動（2007～2011年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

尾崎彰宏「男」を演じる女たち 17世紀オランダ風俗画におけるペトルカルの影」、栗原隆編『芸術の始まる時、尽きる時』、東北大学出版会、2007年、pp.205-234.

尾崎彰宏「レンブラントの懷疑 墮落と自由のあいだ」、野家啓一編『ヒトと人のあいだ』、岩波書店、2007年、pp.63-86.

尾崎彰宏「レンブラントと17世紀オランダ美術における女性表現に関する研究」、平成17年～19年度学研究費補助金・基盤研究(C)(2)研究成果報告書、2008年、15pp.

尾崎彰宏「17世紀オランダ風俗画にみる「妻の鑑」」、栗原隆編『形と空間の中の私』、東北大学出版会、2008年、pp.194-214.

尾崎彰宏「フェルメールのドラマツルギー」、『ユリイカ』2008年8月号、pp.187-195.

尾崎彰宏「ネーデルラントの素描力と古代への挑戦 ホルツィウス《ファルネーゼのヘラクレス》」、『線の巨匠たち展』、東京藝術大学附属美術館、2008年、pp.33-39.

尾崎彰宏「オランダ美術における聖と俗 静物画の勃興」、『西洋美術研究』No.15、2009年、pp.84-99.

尾崎彰宏「アルベルト・エックハウトの「静物画」 オランダ植民地総督ヨーハン・マウリッツの「ユートピア」の表象」、『東北大学文学研究科年報』59号、2010年、pp.37-65.

尾崎彰宏「フェルメール絵画の平面性 そのエロティシズムに見る聖と俗」、『栗原・矢萩・辻本編『空間と形に感応する身体』東北大学出版会、2010年、pp.199-221.

- 尾崎彰宏「静物画としての自画像、あるいは自画像としての静物画」、栗原隆編『共感と感応 人間学の新たな地平』東北大学出版会、2011年、pp. 217-244.
- 芳賀京子「越境するアテナイ人彫刻家」『西洋美術研究』No. 14、2008年、pp.12-32.
- 芳賀京子「越境するアテナイ人彫刻家」『西洋美術研究』No. 14、2008年、pp.12-32.
- 芳賀京子「フェイディアス作《アテナ・パルテノス》(一)——賦与された機能と知覚される神性——」『美術史学』、29号、2009年、pp.143-164.
- 芳賀京子「ローマ世界のギリシア彫刻——人の像と神の像——」展覧会カタログ『古代ローマ帝国の遺産——栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ——』(国立西洋美術館、2009年9月19日～12月13日)、東京新聞、2009年、pp. 179-184.
- Kyoko Sengoku-Haga, “Sculpture greche nel mondo romano: statue profane e statue divine”, in: *L’eredità dell’impero romano* (catalogo della mostra, The National Museum of Western Art, 19 settembre 2009 – 13 dicembre), Tokyo 2009 (上記の論文のイタリア語訳)
- Kyoko Sengoku-Haga, Masanori Aoyagi, “Due statue marmoree da Somma Vesuviana: Dioniso e la Peplophoros,” *Amoenitas* 1 (2010), pp. 237-252.
- 芳賀京子「古代ギリシア・ローマの横たわる裸婦」『ヴィーナス・メタモルフォーシス——「ウルビーノのヴィーナス展」講演録』所収、三元社、2010年、pp. 13-68.
- 芳賀京子「古代ローマにおけるギリシア人彫刻工房の研究」、平成19年～21年度科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書、2010年、76pp.
- 芳賀京子「美術にみる古代ギリシア人の生と死」『生と死への問い』(人文社会科学講演シリーズ)所収、東北大学出版会、2011年、pp. 1-52.
- 芳賀京子「フェイディアス作《アテナ・パルテノス》(二)——非ギリシア人の知覚する美と神性——」『美術史学』、31/32号、2010/2011年、pp. 55-78.
- 芳賀京子「感性の美術～前4世紀以降のギリシャ美術～」、展覧会カ

- タログ『大英博物館 古代ギリシャ展』（神戸市立博物館、2011年3月12日～6月12日ほか）、朝日新聞社、2011年、pp. 198-203.
- Roberto Terrosi, “Ex-humans. Sull’essenza del postumano” (*Ex-humans. On the Essence of Post-human*), *Kainos*, 2 annuario, Punto Rosso Ed, Milano, 2007, pp. 57-72.
- Roberto Terrosi, “Architettura atopica. L’esperienza dell’architettura olandese contemporanea” (*Atopic Architecture. The Experience of Contemporary Dutch Architecture*). *Agalma*, n.13, 2007, pp.57-61.
- Roberto Terrosi, Estetica del restauro (*Aesthetics of Restoration*, Japanese text) 『イタリアにおける美術作品の保存・修復の思想と歴史——欧米との比較から』, edizioni dell’Università di Kyoto, 2007, pp.76-101.
- Roberto Terrosi, “La storia plurale dell’arte. Intervista a Atsushi Okada”, *Agalma*, n. 16, 2008, pp. 83-93.
- Roberto Terrosi, “L’immagine in Occidente e in Estremo Oriente” (Image in the West and in the Far East), in *L’immagine in questione (Questioning image)*, ed. By V. Cuomo, Aracne, Roma, 2009, pp. 61-74
- Roberto Terrosi, “Il nudo indeterminato. La questione del nudo in Giappone”, in *Nudità*, Annuario *Kainos*, n. 4, Milano, 2009, pp. 77-92.
- Roberto Terrosi, “The Muse of History. The Historical Consciousness in 19th Century Italian Art Starting from Foscolo and Cuoco”, 『19世紀学研究』、第2号、2009年2月、pp.39-49.
- Roberto Terrosi, “Il gioco dell’arte”, *Agalma*, n. 17, Milano, 2009.
- Roberto Terrosi, “Futurismo e postumano”, in *A Century of Futurism: 1909-2009* AdI, University of Chapel Hill, North Carolina, USA, 2009 (being published)
- Roberto Terrosi, “Chiasms in Art”, in *Chiasmatic Encounters: Art, Ethics, Politics*, Lexington Books, Lanham, MD, 2009, pp.37-46.
- Roberto Terrosi, “Moda e mutamento culturale nel Giappone contemporaneo”, in Mora Emanuela (ed.), *Geografie della moda*, Milano, Franco Angeli, 2010, pp. 230-240.
- 加藤奈保子「カラヴァッジョとカラヴァッジェスキ フィレンツェにおける二つの展覧会を手がかりにして」、『美術史学』第31/32号、2010/2011年、pp. 115-126.

1-2 著書・編著

- 尾崎彰宏『レンブラント、フェルメールの時代の女性たち 女性像から読み解くオランダ風俗画の魅力』、小学館、2008年、263pp.
- 青柳正規、芳賀京子（監修）『古代ローマ帝国の遺産——栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ——』（展覧会カタログ、国立西洋美術館、2009年9月19日～12月13日 他）、国立西洋美術館、2009年
- 佐々木千佳、芳賀京子（編著）『都市を描く 東西文化にみる地図と景観図 』、東北大学出版会、2010年.
- 芳賀京子（監修）『大英博物館 古代ギリシャ展』（展覧会カタログ、神戸市立博物館、2011年3月12日～6月12日 他）、朝日新聞社、2011年

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(1) 翻訳

- 尾崎彰宏「史料翻訳 カーレル・ファン・マンデル著『絵画の書』（1604）（9）」（共訳）、『美術史学』28号、2007年、pp.77-96.
- 尾崎彰宏（日本語監修）『レンブラントの版画』、名古屋ポストン美術館、2007年、104pp.
- 尾崎彰宏「史料翻訳 カーレル・ファン・マンデル著『絵画の書』（1604）（10）」（共訳）、『美術史学』29号、2008年、pp.199-213.
- 尾崎彰宏「史料翻訳 カーレル・ファン・マンデル著『絵画の書』（1604）（11）」（共訳）、『美術史学』30号、2009年、pp.117-124.
- 尾崎彰宏「史料翻訳 カーレル・ファン・マンデル著『絵画の書』（1604）（12）」（共訳）、『美術史学』31/32号、2010/11年、pp.127-152.
- 芳賀京子、日向太郎訳『ラオコーン——様式と名声——』（サルヴァトーレ・セッティス著）三元社、2006年
- 芳賀京子訳、ルチア・ピルツィオ・ビローリ・ステファネッリ「ローマの宝石彫刻——18世紀から19世紀の興隆」、展覧会カタログ『カメオ展 宝石彫刻の2000年 ～アレキサンダー大王からナポレオン3世まで～』（箱根 彫刻の森美術館、2008年9月6日～10月26日 他）、産経新聞社、2008年、pp.20-24.

芳賀京子・尾関幸訳、パウル・ツァンカー「ローマ帝政期の墓における市民の自己表現」、小佐野重利・木下直之編『死生学4 死と死後をめぐるイメージと文化』、東京大学出版会、2008年、pp. 43-75.

芳賀京子訳、展覧会カタログ『ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち』（国立新美術館、2009年3月25日～6月1日）、朝日新聞社、作品解説などの翻訳（nos. 9, 12-14, 29, 33-37, 42, 55, 57-58, 80-81, 89, 91, 99, 157-167; pp. 137, 212-214）

加藤奈保子訳、イアン・ジェンキンス、ヴィクトリア・ターナー「古代ギリシャ美術と思想における人間の身体について」、展覧会カタログ『大英博物館古代ギリシャ展』（神戸市立博物館ほか、2011年3月12日～）、朝日新聞社、2011年、pp. 9-20.

（2）書評

芳賀京子「A. Stewart, *Attalos, Athens, and the Akropolis: The Pergamene 'Little Barbarians' and their Roman and Renaissance Legacy*」『西洋古典学研究』55、2007年、pp. 164-166

（3）解説

尾崎彰宏「工房」pp.96-101、「レンブラント・ファン・レイン 自己成型への挑戦」pp.154-164、藤枝・谷川・小澤編『絵画の制作学』日本文教出版、2007年.

尾崎彰宏「フェルメール 光の粒子のドラマ」『dankai パンチ』、2008年6月号、pp.14-32.

尾崎彰宏、「レンブラント・ファン・レイン、《ウルカヌスに捕らえられたマルスとヴィーナス》」、『線の巨匠たち展』、東京藝術大学附属美術館、2008年、no. 28.

芳賀京子「ギリシアのアルカイック美術」『オリエンテ』（古代オリエン特博物館情報誌）、No. 35、2007年7月、pp.7-10.

芳賀京子「《夜の女王》とフクロウ」『Herend Owl Club 通信』、No. 5、2007年12月、pp.1-2.

芳賀京子「ギリシア、アルカイック美術の魅力」『学鑑』、丸善株式会社、2008年、pp.18-21.

芳賀京子「ギリシアのヘレニズム美術 『グローバル美術の誕生』」、展覧会カタログ『ヘレニズムの華 ペルガモンとシルクロード』（岡山市立オリエント美術館、2008年9月6日～11月3日 他）、中近東文化センター附属博物館、2008年、pp. 31-39.

芳賀京子「エトルリア美術」「マグナ・グラエキアの美術」「古代ローマの建築」『イタリア文化辞典』、丸善出版、2011年（出版予定）

（４）その他（国際会議プロシーディング）

Kyoko Sengoku-Haga, “Le Peplophoroi della Villa dei Papiri e la misurazione tridimensionale”, A. De Rosa ed., *Vesuvio. Il Grand Tour dell’Accademia Ercolanese. Dal passato al futuro* (Atti del Convegno internazionale, Facoltà di Agraria dell’Università degli Studi di Napoli “Federico II”, Reggia di Portici, 21 e 22 maggio 2010), Napoli 2010, pp. 93-100.

1-4 口頭発表

尾崎彰宏「レンブラント、フェルメール絵画に見る女性たち」夏季公開研究会、新潟大学 2008年8月29日

尾崎彰宏「オランダ美術における聖と俗 静物画の勃興」第1回美学会東部会例会、慶應義塾大学、2009年6月6日

尾崎彰宏「「新世界」の驚異 アルベルト・エックハウトの静物画をめぐって」、筑波大学教授、研究代表・五十殿利治氏の科研費「芸術受容」研究会、共立女子大学、2009年9月27日

尾崎彰宏「自画像としての静物画 / 静物画としての自画像」美術史学会東支部大会、損保ジャパン東郷青児美術館、2010年10月23日

芳賀京子「古代ローマ世界の『マント式ヘルマ柱』——ローマ人によるギリシア美術のパトロネージ——」鹿島美術財団研究発表会、2007年5月11日

芳賀京子「古代の人々の神像へのまなざし ——《アテナ・パルテノス》の場合——」美学会例会、2007年11月24日

芳賀京子「2003年出土の2体の大理石像 ——《ディオニュソス》と《ペプロフォロス》」、国際シンポジウム「火山噴火罹災地の文化・自然

- 環境復元」、2008年2月11日
- 比留間英、藤原研人、鎌倉真音、高松淳、芳賀京子、池内克史「古代ローマ彫像の3次元形状解析による考古学調査」、じんもんこん 2008：人文科学とコンピュータシンポジウム、2008年12月21日
- 芳賀京子、鎌倉真音、池内克史「古代カンパニア地方の2つの彫刻工房——彫刻家ステファノスを3次元計測でつかまえる——」、国際シンポジウム「火山噴火罹災地の文化・自然環境復元」、2009年2月11日
- 芳賀京子「出土彫刻 ディオニュソスとその眷属たち」、国際シンポジウム「火山噴火罹災地の文化・自然環境復元」、東京大学、2010年2月11日
- 芳賀京子「神像と神性 《アテナ・パルテノス》の場合」、公開シンポジウム「パルテノン神殿と祭神のイメージ—古代ギリシアの宗教観を問う試み」筑波大学、2010年3月20日（招待講演）
- 芳賀京子「古代ギリシア・ローマ世界の生動化するイメージ」、ミニシンポジウム「礼拝像の生動性をめぐって」、東京大学、2010年5月16日
- Kyoko Sengoku-Haga, “Le Peplophoroi della Villa dei Papiri e la misurazione tridimensionale”, Vesuvio. Il Grand Tour dell’Accademia Ercolanese. Dal passato al futuro, Università di Napoli Federico II, Ercolano (Napoli), Italy, 2010年5月21日（招待発表）
- Roberto Terrosi, *L’identità del ritratto (The Identity of Portrait, with Japanese translation)*, 京都大学、京都、2007年12月8日
- Roberto Terrosi, 「歴史のミューズ：フォスコロの詩学以降、19世紀イタリア芸術における歴史意識」(*La musa della storia. La coscienza storica nell’arte italiana del XIX secolo a partire dalla poetica di Ugo Foscolo*), Institute for the Study of the 19th Century Scholarship, Nigata, Japan 2007年11月18日
- Roberto Terrosi, *Out of Man, Out of Nature: The Controversial Essence of Technik (English Text)*, XVII IPS (International Philosophical Seminar), Kastelruth, Südtirol, Italy. 2007年7月8日
- Roberto Terrosi, *The Essence of Posthuman (English Text)*, Chapel Hill University, North Carolina, USA, 2007年1月30日
- Roberto Terrosi, *The Shadow of Freedom: Liberty and Liberation between West*

and East, Subject and Environment (English Text), Seoul National University, XXII World Congress of Philosophy, Seoul, Korea. 2008年7月31日

Roberto Terrosi, *Giuseppe Castiglione and Cultural Studies* (English Text), RMIT University, IAPL, Melbourne, Australia, 2008年7月2日.

Roberto Terrosi, *Giorgio Agamben and the Declensions of Violence*, Kastelruth, Bolzano, Italia, 2009年7月4日

2 教員の受賞歴(2007~2011年度)

なし

教員による競争的資金獲得(2007~2011年度)

(1) 科学研究費補助金

平成20年~22年度

尾崎彰宏(研究分担者)「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」 課題番号:20320003
基盤研究(B)

平成21年度~22年度

尾崎彰宏(研究代表者)「カーレル・ファン・マンデル著『北方画家列伝』の成立と影響に関する比較芸術論的研究」基盤研究(B) 課題番号:21320026

平成19年~21年度

芳賀京子(研究代表者) 平成19年~21年度 課題番号:19520088 基盤研究(C)(2)研究代表者:芳賀京子「古代ローマにおけるギリシア人彫刻工房の研究」2,900,000円(3年間総額)

平成20年度

芳賀京子(連携代表者)「像(イメージ)の生動化についての比較美術史的研究」 課題番号:20320022 基盤研究(B)

平成21年度~22年度

芳賀京子(研究分担者)「カーレル・ファン・マンデル著『北方画家列伝』の成立と影響に関する比較芸術論的研究」基盤研究(B) 課題番号:21320026

平成23年度

芳賀京子（研究代表者）「古代ローマの彫刻コピー工房の研究——3次元デジタルデータの取得と応用」基盤研究(B) 課題番号：23320040
4,100,000円（平成23年度）

平成23年度

芳賀京子（研究代表者）「古代ギリシアの礼拝像の研究——「古き像」と「新しき像」の神性」挑戦的萌芽研究 課題番号：23652018
1,100,000円（平成23年度）

平成23年度

芳賀京子（連携研究者）「美術と宝物の相関性についての比較美術史学的研究」基盤研究(B) 課題番号：23320030

（2）その他

平成（17年度）～19年度

芳賀京子・佐々木千佳（研究代表者）「東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム」（総長裁量経費）「地図と都市景観図にみる異文化受容の様相 - 15世紀から17世紀におけるアジアとヨーロッパの出会い - 」5,000,000円（3年間総額）

平成20年度～22年度

芳賀京子（事業分担者）

文部科学省・大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』東北大学大学院文学研究科・歴史科学専攻

教員による社会貢献（2007～2011年度）

尾崎彰宏「聖と俗のあいだ オランダ美術の魅力」宮城県美術館アート・ホール、2008年10月26日

尾崎彰宏「素描の魅力 画家のアトリエをめぐって」秋田公立工業短期大学、2008年12月22日

尾崎彰宏「自由へのまなざし（美の十選）」、日本経済新聞朝刊、2009年（1月22日、1月23日、1月26日、1月27日、1月29日、1月30日、2月2日、2月3日、2月5日、2月6日）

尾崎彰宏「レンブラントとフェルメールの時代のオランダ絵画」、にいが

た市民大学講座、生涯学習センター、2009年6月19日
尾崎彰宏「ベンヤミンの遺産」、ローマ大学「ラ・サピエンツァ」、2010
年3月18日
尾崎彰宏「美術の楽しみと学び」磐城高等学校、2010年10月22日
尾崎彰宏「レンブラントとそのライバル ルーベンスを中心にして」、ブ
リヂストン美術館（土曜講座）、2011年4月2日
尾崎彰宏「レンブラント 夢の傑作 10選」NHK日曜美術館、2011年
4月26/5月1日
尾崎彰宏「手紙が語るフェルメールの真実」NHK日曜美術館、2011年
7月24/31日
尾崎彰宏「西洋美術にあらわれた 男 と 女 」有備館講座、2011
年9月17日
芳賀京子「《ラオコーン》——ギリシア美術からローマ美術へ——」中央
大学市民講座、2007年6月2日
芳賀京子「美術にみる古代ギリシア人の生と死」有備館講座、2007年7月
14日
芳賀京子「ギリシャのアルカイック美術」岐阜市立歴史博物館講演会、2007
年9月16日
芳賀京子「ラオコーンの名声と謎」東北芸術工科大学公開講座、2007年10
月27日
芳賀京子「古代ギリシア・ローマの美術を見る」NHK文化センター、2007
年10月より隔週（現在に至る）
芳賀京子「古代美術における横たわる裸婦」国立西洋美術館特別講演会、
2008年3月15日
芳賀京子「ギリシアのヘレニズム美術」、岡山市立オリエント美術館特別
講演会、2008年9月27日
芳賀京子（パネリスト）、中近東文化センター主催『ペルガモンとシルク
ロード展』記念シンポジウム「アレクサンドロスは日本に何をもたら
したのか」、2008年11月12日
芳賀京子「ローマ人とギリシア美術～3次元計測で明らかになる古代彫刻
工房の実態～」みやぎ県民大学、2009年9月19日
芳賀京子「古代ローマ帝国の遺産展——栄光の都ローマと悲劇の街ポンペ

イ—— ～ 」、東京新聞、2009年9月24日～10月3日
芳賀京子「ローマ世界の美術」、国立西洋美術館特別講演会、2009年10月24日
芳賀京子「ラオコーンの彫刻家たち」、斎里蔵講座、2010年6月5日
芳賀京子「美しきヒトのカラダ～ギリシア美術の裸体～」、リベラルアーツサロン、2011年6月11日
芳賀京子（出演）「日曜美術館 おしゃべりなカラダたち～ギリシャ彫刻の楽しみ方」、2011年7月17/24日、NHK教育
芳賀京子「ギリシャ彫刻の見方～古代の人々のまなざし」、国立西洋美術館特別講演会、2011年9月3日
Roberto Terrosi, *Leonardo e la filosofia del Rinascimento* (Leonardo and the Philosophy of Renaissance), “Piazza Italia”, Komaba Museum, Tokyo University, Tokyo, 2007年5月26日
Roberto Terrosi, *L'immagine in Occidente e in Oriente* (The Image in Western and Oriental Civilization), conferences-seminar “La fine dell'epoca dell'immagine del mondo”, Pompei (Napoli), Pompeilife, 2007年3月7日
Roberto Terrosi, *La cultura italiana del giardino e il Giappone* (*The Italian Garden's Culture and Japan*), Italian Cultural Institute, Kyoto, 2009年5月22日

教員による学会役員等の引き受け状況（2007～2011年度）

尾崎彰宏

美術史学会委員（2003年）～07年、09年～

美学会委員（2004年10月）から現在に至る。

仙台市博物館協議会委員 2010年～

大阪大学大学院文学研究科・文学部外部評価委員、2008年度

芳賀京子

美術史学会委員 2007年～09年。

美学会幹事 2007年から現在に至る。

京都ギリシア・ローマ美術館評議員 2006年7月から現在に至る。

地中海学会大会準備委員 2010年。

教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2011 年度)

1 大学院授業担当

教授 尾崎彰宏

- 前期 美学・西洋美術史特論
- 通年 美学・西洋美術史研究演習
- 通年 美学・西洋美術史研究実習
- 通年 美学・西洋美術史課題研究
- 通年 留学生担当研究演習

准教授 芳賀京子

- 後期 美学・西洋美術史特論
- 通年 美学・西洋美術史研究演習
- 通年 美学・西洋美術史研究実習
- 通年 美学・西洋美術史課題研究
- 後期 人文社会科学研究

2 学部授業担当

教授 尾崎彰宏

- 前期 美学・西洋美術史各論
- 前期 美学・西洋美術史基礎講読
- 後期 美学・西洋美術史概論
- 通年 美学・西洋美術史実習
- 通年 美学・西洋美術史演習
- 通年 IPLA の留学生担当授業
- 後期 英語原書講読

准教授 芳賀京子

- 前期 美学・西洋美術史概論
- 後期 美学・西洋美術史各論
- 通年 美学・西洋美術史実習
- 通年 美学・西洋美術史演習

3 共通科目・全学科目授業担当

准教授 芳賀京子

前期 基礎ゼミ

(2) 他大学への出講 (2007 ~ 2011 年度)

教授 尾崎彰宏

2008 年度 岩手大学人文社会学部 (集中)

2010 年度 東京大学文学部・大学院人文社会系研究科 (集中)

岩手大学人文社会学部 (集中)、放送大学宮城学習センタ
一面接授業 (集中)

2011 年度 名古屋大学文学研究科・文学部 (集中)

准教授 芳賀京子

2007 年度 大阪大学大学院文学研究科・文学部 (集中)